



森林レンジャーがゆく (36)

秋川の見どころ その①

市内を東西に流れる秋川には、実にいろいろな顔（表情）があります。川沿いの散策路を調査で歩くと、本当にたくさんの生き物に出会うことができます。それだけではなく、河原にはいろいろな種類の石があったり、源流部には小さいながらも風情のある滝があったりと、興味をそそる出会いが数多くあります。今回は秋川下流域の見どころを紹介します。

秋川下流域（特に秋川と多摩川の合流付近）の魅力は、水辺に集まる鳥の種類の高さです。季節によって水辺を利用する鳥の種類は変化しますし、同じ種類の鳥でもいろいろな行動・仕草を観察できます。例えばサギの仲間は、水辺に片足立ちで静止したまま微動だにせず魚を狙う個体がいったり、翼を広げて優雅に大空を旋回する個体がいったりと、1羽1羽動きに個性が現われ、観察していてとても面白く感じられます。また、姿はなかなか確認できないのですが、葦原の中から大音量で「ギョギョギョ、ギョギョチ、ギョギョチ、ギョギョチ」とさえずるオオヨシキリの鳴き声は、散策路を歩く人の耳を楽しませ季節の訪れを教えてくれます。このように多くの鳥類が集まるエリアなので、バードウォッチングをする人たちにも知れ渡り、秋川下流域は野鳥好きの人には欠かせない場所になっています。

他にお勧めする下流域の魅力は、上流から水の力で河原に運ばれたさまざまな種類の石です。ぶつけ合うとすぐに割れてしまう砂岩や泥岩、茶色くて硬いチャート、白くてもろい石灰岩など石にもいろいろな種類があり、少し違いが分かってくると石を見ながらの河原歩きは飽きることはありません。あまり見たことのない色、模様の石を見つけるとつい手に取ってじっくり観察してしまいます。特に真っ黒い石があるとずっしりと重いマンガン鉄ではないかと期待してしまいます。

（佐々木）



川の上を飛ぶダイサギ